

圖ヲ要シタ次第アリマス。

願レバ昭和十年十二月難工事成就ノ意氣ニ燃エテ着手シ

本橋ノ優美ニシテ高雅ナル高欄及擬寶珠ノ設計ニ關シ絶大ナル指導ト援助ヲ與ヘタル内藤伸先生ニ對シ此ノ機會ニ

以來一年十一ヶ月ノ工事期間中ニハ數十年來嘗テナキ寒氣

於テ深甚ナル感謝ノ意ヲ表スル次第デアリマス。

ニ襲ハレ又監督員深田技師ノ殉職等種々ナル困難ニ遭遇致

以上概況ヲ述ベテ工事報告ト致シマス。

シマシタガ従業者ノ刻苦精勵ト各方面ノ理解アル御援助ニ

昭和十二年十月十八日

依リ茲ニ豫定ノ竣功ヲ見ルニ至リマシタコトハ誠ニ感謝措

島根縣土木課長 寺田甫

時局日誌 (三)

T H 生

十月三日 隣れむべき徳州も亦忽ちにして

は代州より南下して三日崞縣を占領し更

山西の本山をつゞき荒してしまつた。

陥落し終つたわが徳州攻略軍が此朝一齊

に原平へ敗退の敵を追撃中であるが、右

徳王の采配を振る内蒙古軍は西へ進撃を續け相次いで要地を占め、九月十日遂

はすかさず猛然城内に突入し遂に午前十

時寄せ始めた、北支の荒鷲は一、二、三

の三日間連續を以て太原を襲ひ既にこの件

の雪辱の宿望を遂げた。

上海劉家行、顧家宅占領後三日も續いて空陸聯合で打つて出で上海街道に沿へる敵軍は朝來陣地を捨てて續々大場鎮及び南翔方面に後退した。

我が海軍航空隊は終日開北、大場鎮等を爆撃特にこの日は上海近郊における最も重要な敵軍根據地となれる南翔に對し反復して思ひ切り爆撃を敢行した。目下の戦局の中心は北四川路より北停車場に通ずる虬江路で我が軍はハスケル路と北四川路方面の兩方面よりこの地區の敵を壓迫しつつある海軍航空隊は三日初めて安徽省の首郡安慶を襲ひ飛行場及格納庫と一機とを破壊した、又江陰の上流に於て敵海軍の中堅軍艦逸仙型を始め砲艦一、水雷艇一をも爆撃大破した、更に廣東、江蘇の徐州、省境に近い山東の韓莊又兗州を襲撃した。

十月四日 上海前線の戦ひは愈々激烈を極め戦局は益々進展する羅店鎮西方最前線

にある和知部隊の正面と之に連なる我が陣地に對し前夜敵は大舉して逆襲し來つたので、和知、淺間、安達の各部隊に高橋、佐藤の砲兵隊も協力して應戦し茲に同方面に於ける未曾有の大規模の激戦が展開され戦鬪は朝まで續いたが昨朝この大部隊の敵を撃退すると同時に直に攻勢に轉じ和知部隊の如きは更に西方に追撃して午後一時頃には過去一週間に互つて我を惱ませた強敵を羅店鎮嘉定間の重要點楊家村を占領した。

海軍航空隊は退却中の各敵を空襲せる外終日開北、江灣、眞蕪、南翔、大場鎮等一帶の敵陣地を爆撃した、陸戦隊は崇德女學校を午前十時半占領した。

北支山西に於ての連續三日間に互るわが大々的の空襲によつて太原の敵空軍根據地は殆んど潰滅した次で四日は殘餘の軍事施設に對し我が荒鷲群が大舉して徹底的の爆撃を行つたので我が地上部隊未だ

到らずして太原は既に蟲の息となつた。

九月十八日香港港外にて遭難の支那人漁夫五名がドイツ汽船シヤルンホルスト號に救助されて香港歸着後日本潜水艦に擧沈されたと語つたと云ふ事件につき英國政府は香港政府に命じ真相調査をなさしめて居る。

十月五日 上海戦局の中心は吳淞クリークである、この大クリークの北方に田上、石井、川並、福井等の諸豪が並んで或ひはクリークを利用して動かぬ頑敵に對し或ひはその對岸に穴籠りする敵に對し、それ／＼猛撃を續てゐるが、前日の福井部隊崇明塘占領によつてクリーク北側の清掃工作は大いに進捗し愈々對岸の敵に對し主力が集中されるに至りあが空軍及び砲兵隊との協力を以て更に勢ひ猛に攻撃中海軍機は大場鎮空襲の際一機の犠牲を出した。

平漢の敵は潮の如く押寄せて來る我が

軍を石家莊にて死力をつくして喰ひ止むべくその前面の滹沱河を防禦線として平漢線を挟んで西は白沙鎮より東は普縣に至る陣地を固めるに大意である。

十月六日 土木事業、農業、員共濟組合規則中改正（應召者等の再加入）内務省令四二號を以て公布。

各地大空襲、海軍航空隊は午前午後二回に互り南京大空襲を舉行し、十數機と壯烈なる戦闘を交へて八機まで撃墜して大勝を博した、安慶、蕪湖、又別隊は長驅して安徽省首都安慶及び蕪湖を再び襲うていづれも飛行場を大破した。

羅店鎮方面より嘉定に向つて躍進の各部隊は一つになつて各々前面の敵を打ち破り、陣地を一つ一つと奪取しつつ西へ西へと進撃を續けた。

吳淞クリーク（蘊藻濱クリーク）征服のために多大の犠牲を拂つたわが軍の加納、津田部隊は六日早朝工兵隊の努力と

共に決死隊を以て渡河の途を開き大膽なる敵前渡河に成功し廟行鎮の東北に姿を現はして來た。

德州陥落後この方面の敵主力は禹城にあつてその前衛として平原附近には二十九軍の敗殘軍等が新陣地構築の眞最中を此日午前十時裝甲列車を用ゐて平原を占領した。

十月七日 軍機保護法施行規則陸軍省令第四三號並海軍省令第二八號公布（軍機保護法昭和十二年八月一三日法律第七二號）

上海戦局は英米等の外交戦には風馬牛で相變らず進展し、秋雨と彈雨との降りそよぐ江南の水邊を我が勇猛の將兵等は突進を續け次第に嘉定に近づきつゝある又海軍機は開北大場鎮方面の敵陣地に對し午前午後二回に互つて襲撃を行つた海軍機〇〇機を以て徐州、臨城、兗州、泰安等の沿線各要地の軍事施設を爆破し

た外右退却中の軍用列車を襲撃して多大の損害を與へた。

十月八日 石家莊攻略戦の前哨戦としての正定城總攻撃はいよ／＼八日午前八時より開始された、例の如く歩砲空の協力の下に鐵道線路を挟んで三方より進迫した敵は忽ち退却し始め午後六時遂に之を占領した、更に潰走の敵をその南方に要邀し進退谷まつた敵に對し殲滅的打撃を與へた。

上海に在る松井陸軍最高指揮官は八日始めて聲明を發表して、南京政府の「赤色勢力と苟合せる拜外抗日政策を一擲せしめ明朗なる東亞平和の基礎を確立」せんとする目的と列國權益の尊重保護の意圖とを明かにした、因に昨日陸軍省より發表された十月五日までの上海戦における結果によれば敵の遺棄死體五萬六千七百餘、鹵獲の機關銃四百八十小銃三千百餘となつてゐる。

廣東爆撃は八日も朝からわが海軍機○

○機の低空飛行を以て猛烈に行はれた郊外の白雲飛行場、彈藥庫、兵工廠から集積せる武器、軍需品にまで爆撃を加へた、又海軍航空渡洋部隊は八日長翔して初めて湖南の株州を襲撃し鐵路、兵工廠、製鐵所等に大損害を加へた、株州は云ふまでもなく漢線上の最も重要な接續點である。

十月九日 帝國外務省から支那事變の實體に關し聲明する所があつた。

北支正定は我が軍の城内進入後彼我の間に保定戦以上の激烈極まる白兵戦を演じ屍の山を築いた末九日朝に至つて殘敵が滹沱河の南岸に退却した結果完全に我が軍の手に歸した。

支那軍は二十萬で其の總指揮官には、參謀總長程潛が自ら當り正面の指揮には孫連仲を起用して當らせこゝを先途と戦はんとする姿勢である。

山西北部の平魯を占領して更に九日綏遠に向つた我が快速部隊は長城に沿うて山岳地帯を強行軍して午後一時過ぎ綏遠省境附近の要衝右玉城に入城した。

松井最陸軍高指揮官の八日の聲明及び談話の發表でますます全軍の士氣は引きしまり戦局も愈急進展を遂ぐるものと觀られるに至つたが、上海地方は連日の雨で九日は最前線の羅店鎮前線の安達、永津部隊は豪雨に霞んだ中に突撃を強行して敵陣地をそれ／＼攻略した。

十月十日 此日は双十節支那で一等芽出度い祭日なので蔣介石委員長は例年の通りラヂオの記念放送をして最後の一人まで戦ひ抜くべしと激勵したが、この記念日に北支に於ける最も重要な支那軍據點の一である石家莊が陥落の憂目に遭つたものである、正定占領に續いて矢繼早に九日午後より開始された石家莊攻撃戦は、明くれば十日紺碧の皇軍晴れば拂曉より

我が砲隊より打出す巨彈と共に徒歩部隊猛進といふ本調子を以て開始された、かくて石家莊におよそ期待に反して誠に呆氣なく陥つたものである。

海軍航空部隊は毎日のやうに空襲する廣東にこの日も朝から出かけて行つて天河飛行場、粵漢線の鐵橋等に爆彈を投げた丁度双十節に折角氣勢をあげてゐる最中に非常警報と共にこの空襲で廣東での催し物は型なしになつてしまつた。

上海戦線は近頃天候に恵まれず此日も最前線方面の各部隊は風雨の中を進撃しなければならなかつた、即ち淺間、永津、安達各部隊は朝から行動を起して敵陣地を攻撃占領して正午頃に楊涇クリークにまで進出しに西方へ壓迫してゐる。

尙此日海軍省の公表に依れば事變發生以來の戦果は次の通りである。
一、爆撃及び砲撃により支那軍に與へたる損害

◇艦艇△巡洋艦七隻△砲艦七隻（沈沒擱坐又は大破）△驅逐艦一隻（爆撃沈沒）
 △水雷艇一隻（爆撃沈沒）△測量艦一隻（砲撃沈沒）計一八隻

◇飛行機△一墜一七四（確實）七（稍確實を缺く）計一八一△地上爆破一三六（確實）七（稍確實を缺く）計一四三△合計三二四

◇主要軍事施設の爆破△飛行場一八△兵器工廠一〇△鐵道粵漢、浙贛、津浦、京滬各線要地

二、我海軍の犠牲

△戦死及び負傷者一一三三名△飛行機三九機△艦船及び陸上施設損害なし

十月十一日 平漢方面石家莊が臍くも潰えて後は河北省で残る目星いところは順徳たゞ一つとなつてしまつたので、今や敵も味方も順徳に力を注いでゐる、我が空軍は順徳附近の敵陣地及び退却中の敵軍列車を爆撃した。又正定から石家莊の東

側に通つた部隊は石家莊東南方の藥城、趙州等を占領した。

上海浦東側の敵が十日夕刻から夜にかけて又復わが江上の軍艦及び邦人密集の地區を目標に砲撃し來つたので軍艦から直に反撃を逞へたが虹口には多數の砲彈が落下して邦人非戦闘員にも相當の被害を蒙つた、十一日早朝から劉家行戦線の我が部隊は泥海の中を強行軍して活動を開始し羅店鎮東南方で激戦を交へた、午後から久方振りの晴で陸海の空軍は相協力して羅店鎮前線、大場鎮、江灣、閘北、浦東等の諸陣地に對して猛烈な爆撃を行つた海軍航空部隊は廣東方面空襲の手を少しも緩めず十一日もまた朝から〇機が廣東上空に飛來して最近實現を見るに至つた英國關係の廣九線粵漢線との連絡の接續點附近を爆撃し續いて第二、第三の部隊は粵漢線沿線、黃埔等を襲うた。

十月十二日 加盟七十二團體に上る國民精

神總動員中央聯盟結成式は十二日午後一時から日比谷公會堂で舉行した。

石家莊占領後の地上部隊がそれ／＼破竹の勢ひで南に西に追撃を續けてゐるのに應じて我が陸軍の飛行隊は平漢沿線では石家莊東南の寧晉、順徳の内邱その東方の堯山（唐山）等を爆撃したが地上部隊は早も寧晉を占領した、正太沿線では山西省内の壽陽、榆次の如き要點を空襲して退却中の敵兵の退路を脅かした。

山西の我が粟飯原部隊は占領後の原平を更に南下し前日夕刻忻口鎮附近で遭遇戦を演じて撃退したが、十二日敵機四機がこの附近に現れ我が軍に對し爆彈を投下したが地上部隊のため撃たれて内一機は墜落した。此日午後一時過ぎ敵の五機が突然太沽上空に飛來して爆彈四個を投げ我が方の射撃にあつて忽ち姿を消した。なほこれは津浦線よりも平漢線に近いが濟南の西方に河北の南端に近い軍事

上の重要地大名の飛行場に對して昨晚我が航空隊〇機によつて大爆撃が加へられ格納庫、飛行機等を大破した。

江西首都南昌にも空襲が行はれた、即ち海軍航空隊の〇〇機は大擧して到り飛行場、兵舎等に大損害を與へた。尙又廣東飛行場、虎門附近の敵艦爆撃の外に粵漢線の機能を飽くまで麻痺させるべくその要衝數ヶ所を爆破した。

海軍航空隊は午後四時悪天候を衝いて南京を襲撃して飛行場、軍事施設に多大の損害を與へ更にノースロップ十數機と壯烈な空中戦を演じて五機ばかりを撃墜した。

上海では前線の地上部隊と協力し江灣開北で活動したが特に昨未明より浦東側の敵陣より又もや虹口地區の攻撃を始めたので、江上艦隊と共に海軍航空隊も出動して之を撃ち据ゑた。なほ暗雲低迷の天候の中に我が部隊は朝より攻撃を始め

た、主として〇〇方面の頑強な敵と華々しい戦鬪が続けられ敵を壓迫して相當の戦果を得た、なほ加納部隊は曹宅附近における戦鬪中加納部隊長は壯烈なる戦死を遂げた。

殺虎口を越えて、綏遠城に向ひつゝあつた中島快速部隊は十二日夕刻、綏遠の東南一里半の東大黒河の敵陣を抜き綏遠城に迫りつゝある。

十月十三日 京漢方面の我が軍は全く順風に帆を上げたやうな快調子であつて、神田猪木部隊は前日既に固城鎮を手に收めたが、十三日は柏郷附近で激戦を演じてこれを撃破更に南進を續けた。

正太線に沿うて山西へと進撃する鯉登部隊は井陘占領後早くも山西省境に達しその關門の有名な娘子關の險に陣取る敵に對し攻撃を開始、忽ち舊關を攻略して更に新關に向つた、十三日軍司令部から井陘炭坑が何等破壊されてゐない旨發表

されたが云ふまでもなく同炭坑が外國資本と關係があるので關係筋に對する心遣りからである。また平綏線方面ではわが快速部隊は昨日午後綏遠の飛行場を占領した。

山東に進入して本月三日德州占領以來次の戦備を整へてゐたが我が先鋒部隊は十日振りて昨晚より再び前進行動を開始平原の北方に新陣地を構築した敵と手合せを始めた。

海軍航空隊は昨朝開北の空襲と共に江灣鎮の頑敵に對しても爆撃を加へたが同新銳部隊は浙江の嘉興、杭州の停車場に軍需品滿載の貨車機關車等を爆破した又渡洋部隊は大擧して湖南省の要衝衡陽を襲撃して粵漢線の大機關車庫二棟を爆破した。

十月十四日 説かずば歸らじと遣外使節大倉喜七郎氏（イタリー）伍堂卓郎氏（ドイツ）松方幸次郎氏（米國）は午後四時

東京出發。

我軍は内蒙古軍と共に三方より攻め寄せ十三日午後に至り綏遠城郊外にて長谷川、道盛兩部隊が合流して更に猛烈に攻め立て非常な激戦の末昨朝八時之を占領した。續いて之に接する舊市街歸化城も陥落した歸化城外に眠る王昭君の夢を驚かせた。

津浦線の最前線平原の攻撃にたゞつたと見る間に早くも十四日朝落ちてしまつた。南進に南進を續けてみて坂西、石黒兩部隊は臨城附近に達し猪木、神田兩部隊は更に南方の内邱を占領していよいよ河北省最後の大物順徳を指呼の間に望むに至つた。

山西正太線より進んで娘子關の險をパスすべく攻撃中の我が部隊は十四日午前十一時案外たやすく娘子關を陥れいよいよ山西に打つて出るに至つた。

上海市街地方面にあつては閘北の敵と

激烈な戦闘を交へた、早朝より空軍を以て敵陣に猛爆撃を加へ北四線路方面より陸戦隊は突撃して敵を制壓した。

この日我が海軍機は暫く振りに長驅して大舉南京に押し寄せ大戦場飛行場を爆撃したが敵機十機現れ壯烈なる空中戦を演じた後一機を撃墜した。

陸軍飛行隊は太原を空爆し京漢線の邯鄲(河北省南部)更に河南に入つて彰徳に敵を爆撃したが、中支にあつて海軍航空部隊が十三日上海郊外の敵の大根據地南翔の外に安徽省は故段祺瑞氏の故郷合肥にある飛行場を襲ひ二機を破壊した、又蘇州に停車場を常州附近に機關工場を杭州に機關庫をそれれ爆撃した。

十月十五日 臨時内閣參議官制(勅令九三號)第一條支那事變ニ關スル重要國務ニ付内閣ノ籌畫ニ參セシムル爲臨時内閣參議若干人ヲ置ク、内閣參議ハ之ヲ勅命ス第二條内閣參議ハ國務大臣ノ禮遇ヲ受ク

附則本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

秩父宮兩殿下に於かせられては去三月十八日畏くも天皇陛下の御名代にて御渡英ジョージ六世皇帝エリサベズ皇后の戴冠式に御參列の大任を果させられ氷川丸にて御歸朝午後一時三十分横濱御着港遊ばされた。

紀元二千六百年奉祝會事務の委囑を行政廳に委囑したる場合に關する件(勅令第五九六號)

十四日夜閘北方面の敵が我が陸戦隊に對して大舉逆襲して來たのと策應したが大損害を興へて撃退海軍航空隊は午後四時より夕刻に至るまで實に十數回に互る猛爆撃を閘北、江灣、浦東、南翔等の敵陣地に加へた。

北支滄沱河上流の自然物によつて忻口附近で頑強に抵抗を續けてゐる敵に對して十五日も我が工兵決死隊が爆弾を抱いて敵陣に飛び込むなどの接戦を以て下王

莊部落を占領したが、その際我が空軍は之と協力して附近の山地の敵を空爆し同時にその背後の忻縣をも襲撃したがその時立ち向つて來た敵機三機と空中戦を演じて内二機を叩き落した。既に戦火の納まつた山西北部の十三縣を以て晉北（山西北部の意味）自治政府が大同において結成され十五日その成立式が舉行された。

十月十六日 京漢線に沿うて進撃中の我が部隊は十五日午後三時河北省における最後の要區順徳に難なく入城した。これ津浦線の前線と全く歩調が揃つた。この日殆ど時を同じうして〇〇部隊長は晴れの石家莊入をなした。

粟飯原、大場の大手筋攻略部隊は十五日夕刻遂に山西の忻口の堅陣を抜き我が軍は退却する敵を追うて忻縣に近づきつゝあるが、これに協力して我が飛行機は昨朝同地を空爆した。

海軍航空隊は十五日も廣東に遠征して三水、肇慶等の西江都市を始め例の粵漢沿線の各要地を襲ふたが、この初めて廣西入り爲しその門戸の梧州、首都の桂林に爆弾を投じて軍事機關を打破した。昨十六日も日課の如く南京を襲撃して飛行場を荒したが別隊は江蘇の崑山無錫浙江の嘉善等の停車場を爆撃して甚大なる打撃を與へた。

十月十七日 戦ひには祭日も日曜もない、綏遠省城が陥つて三日目に我が驚くべき快速川村先遣部隊は凜烈の陰山嵐を衝いて包頭を占領した、包頭は京綏線の終點であり寧夏甘肅新彊等の遺強諸省への發足點であつて軍事上、經濟上極めて重要な地だ。察哈爾〇〇軍は更に敗走の敵を五原方面へ追撃しつゝあるが察哈爾、綏遠の戦局は之によつて定つたものと謂つてよい。

裝甲列車を先登に立て、邯鄲に押し込

んだ遼山部隊は昨朝名の如く簡單に占領してしまつた、他方本路線の東方地區子牙河上流の際平より西南へ下つて來た兒島部隊は十六日夜順徳の東五里の任縣を占領他の部隊は更に南方の南和縣城を相各いで占領した。山西、忻口の敵は天險に據つて我が軍の進路を阻んでゐたが十七日朝歩、砲工の協力を以て激戦の後遂にその高地を占領した。

十月十八日 河北省における京漢線南端の都邑磁州は豫定通りに十八日我が軍の手に歸した、これで河北省に残るは僅に中部地區の敵のみとなつた。一方本線の東側を行く部隊は十六日の南和占領に續いて翌十七日午後には廣平に進入した。

上海戦線では各方面とも攻撃を續行して十八日は〇〇〇、〇〇〇等に於て敵に大打撃を與へザリと西方へ押しを行つた。陸軍飛行隊も活躍を續け嘉定、太倉、崑山等の後方各地を偵察又は爆撃し海軍

機も亦江南の秋空を快翔しつゝ、開北、江灣浦東の敵陣地にひねもす爆彈投下を續け共に非常な痛手を敵に負はせた。

十七日夜から昨曉にかけて數回に互り敵機は吳淞跡附近の工部局傳染病院に爆彈を落し患者が傷いた、而も敵機の燒夷彈投下とか前線における敵のガス彈使用とか誠に以て聞き捨てならぬ話だ。

海軍航空隊は午後から南京を襲撃したが此日は事變以來初めて千田部隊長自ら〇〇機を率ゐて出動し敵機の影をひそめた首都の上空を自由自在に飛んで思ふ盡を衝いた、又一隊は蘇州、杭州に爆撃飛行を行ひ附近の停車場、飛行場等を破壊した。

十月十九日 北支山西の敵は忻口の陣を死線としてこの天險に主力六萬を集中してこゝを先途と防戦して居り恰も過敵の京漢戦線に於ける大房山附近の山嶽戦を彷彿せしめるものがある。

上海の〇〇部隊は飛行隊と協力して楊涓クリーク方面の新宅、王宅附近の敵陣地を奪取し又廣福南方の馬家宅、陳家行附近の陣地をも占領して敵を更に西方へ壓迫しつゝある。一方海軍機は朝から江南の空を飛び廻り、江灣、浦東、大場鎮及び嘉定方面の敵の最前線に向けて爆彈を投じたが特にこの日開北における最大建築にして且敵の主要陣地たる鐵道管理局の大ビルに對して今までにない大損害を與へることが出來た。

海軍航空隊は十八日夕刻珍しく漢口に飛んで不意撃ちを喰はせ面喰ふところを飛行場に待機中の大機九、小機約二十を爆撃し、その際立ち向つて來た敵機と決闘の末二機を撃破した。尙長翔して未明より三回に互り首都南京を襲撃、例の大場校飛行場を叩いたがその際夜中の空中の空中戦を演じて一機を撃墜し、更に對岸の津浦線終點である浦口を襲うて停車

場構内にあつた軍用列車を爆破し同時に火災を起させた其他蘇州、無錫、常州等の滬寧線の主要驛を空襲してそれぞれ軍事に關係あをものを打破した。

十月二十日 上海戦は正しく今次事變に於けるヴェルダン戦だ、無比の天然要害に巧妙なる人工を加へたる地域にあつても敵は感心によく戦ふ、我が軍力戦想ふべきである。十九日前線の各部隊は一齊攻撃を開始してクイリクを敵前渡渉し挺身奮戦の結果重要な敵陣を奪取せるもの少なからず近頃での大戦果を納め得た。敵機は前夜も亦虹口を襲ひ來つて爆彈を投下した、駐支米大使は二十日國民政府に對し支那空機の上海租界上空飛行に抗議したものである、我が海軍航空隊は早朝より大場鎮、廟行鎮、江灣鎮、眞茹、七寶鎮、南翔と上海附近の主要陣地を片ツ端から荒し廻つた。

海軍航空隊はこの日も南京を空襲、大

校場飛行場、兵營を爆撃し又別隊は蘇嘉鐵道の北瑚驛、滬杭鐵道の松江驛等をも襲つた、更に一隊は午後六時南昌を空襲、敵に大打撃を與へ、又午後一時には粵漢線の湖南省要地○○驛も爆破した。

十月二十一日 全國民の關心の凝結する上海地區の戦況は二十一日に於て少なからず進歩を見た、即ち○○部隊は前日に引續きこの日空軍と砲兵との協力の下に新木橋附近の敵に猛攻撃を強行し最後の大突撃を以て遂に午後三時半その一部と戴家宅とを占領した、又和知部隊は二十日楊涓クリーク西側の堅陣を攻めて新宅を抜いてゐる。

此日海軍は渡洋部隊その他の航空隊をもつて午後二時頃南京を空襲せしめて飛行場、浦口停車場、硫酸工場及び市内外の軍事施設に對し多大の損害を與へた。又この日も或は蘇州、常州、松江の停車場を襲撃し或は南翔の野砲陣地を爆撃し

て之亦大きな効果を挙げた。

德州に出來た治安維持會はこの上山東に戦禍が擴大せぬやうにと韓復榘に對し日本軍と協調すべき勸告文を發することを目決議した。

十月二十二日 安井英二氏依願退職し後任として宗秩察總裁、侯爵木戸幸一氏文部大臣に任ぜられる。

防空委員會令(勅令五九八號)發布

津浦線鐵道線路に沿うて東方地區を南下中の赤柴部隊は二十二日朝德州東南約十里の陵縣を占領した、本線上の先鋒福榮部隊は敵の大軍が堅固に構へてゐる馮城にデリデリと迫つてゐる我が○○、○○兩部隊に對し二十一日突如敵の大部隊が夜襲し來り一時我が軍は頗る苦戦に陥つたが遼山、石黑兩部隊の増援の後攻勢に出で二十一日朝石黑部隊は豐樂鎮を、昨朝遼山部隊は高地を占領、次で我が軍は更に敵を壓迫して鐵橋を確保するに至つ

た、而も二十二日敵漳河北岸に現れわが軍を襲つたが我方に損害はなかつた。

山西娘子關にあつては二十日より二十一日にかけて井陘南方の山嶽地帯の敵を攻撃して同方面の主陣地「一〇三三」高地を占領したが更に同夜より正太線兩側の長城線に據る山窩に對し突撃を敢行し昨朝わが空軍と協力して更に猛攻を加へ逐次敵を追ひ込みつゝある、忻口戦にあつては猛烈極まる白兵戦のすゑ廿一日赤い夕日に照されつゝ要點「船型高地」を占領した。

十月二十三日 企畫院官制(勅令六〇五號)發布。企畫院事務分掌制定(第八條交通部事務Ⅱ陸運、水運、空運、道路、港灣、河川及航空路等)

北支戰線山西方面、正太鐵道に沿ふ娘子關附近の攻防戦は困難なる巨嶽戦を續けてゐてなほ決定的の勝利までに至つてゐない小林部隊は昨正午頃莊頭を占領し

た、一昨日の朝陵縣を占領した本線の東側を行く赤柴部隊は同日夕刻更にその南にある鳳凰店を占領した、文字通りに朝に一城夕は一壘を抜いて行く、敵はその東南の臨邑にある敵諸共更に東方と東南へ落ちて行つてゐるが、我が陸軍機はこの作戦に協力して二十三日朝より出勤して右の落武者に爆彈を浴びせ更に午後は臨邑をも爆撃した。

綏遠省の肅清工作が略成り十七日には綏遠省城に治安維持會の成立を見るに至つたが、二十三日同會主催の下に市民大會が開かれ打倒共產主義、五族共和をモットーとする宣言が可決されると共に中華民國の年號を廢し成吉思汗紀元に改め二十三日より成吉思汗紀元七百三十二年十月二十三日と呼ぶ、同時に南京政府より分離獨立して青天白日旗を捨て蒙古旗を用ふる旨を決議した。

海軍航空鎮の波洋精銳部隊は二十三

日午後鷗翼を連ねて例の如く遙々海を渡つて南京を襲ひいつものやうに荒仕事を繰返した、之に謀合せた某基地の部隊も首都を空襲しその一隊は逃ぐるマーチン機等を安慶まで追ひかけて前日に續いて序に同地でも一仕事稼いだものである。

十月二十四日 二十三早朝來大場鎮江灣鎮に對し實施せる總攻撃に堪へかねた敵は二十四日朝遂に全線崩壊退却するに至つた我國民が待ちに待つた日は來た。

江灣方面の敵は既に一昨夜より退却開始の模様だつたが今日は終日退却が續いたこの朝江灣方面の復旦大學の陣地が先づ我が軍の手に歸したが海軍機も陸軍機も總出で退却の敵に追撃爆撃の熱演だ、砲兵も軍艦も陸海の全能力をあげ協力美を極度に發揮して息もつかせず西と西南へと追ひ立てた、午前中に大場鎮西方のクリークに進出、一方網を引く如く江灣大場鎮正面より進撃だ既に大場鎮の一角は

崩れた敵は大體南翔方面に集中してゐるので我が空軍は南翔附近一帯に大爆撃を行ふと共に更に退路線を斷つため蘇州クリーク、嘉興、崑山、浦東より松江までも爆撃を敢行した、この大機に乗じて陸戦隊も亦開北に對して行動を開始した。

連日困難なる山嶽戦を續けてゐるが娘子關方面に向ふ鯉登部隊は二十三日關の北方一里の省境の高地を占領し小林部隊は井陘より保定に通ずる省境附近の唯一の通路を扼した。

漳河を渡つて河南に入る部隊は右翼遼山、左翼石黒、中路森田と續々増加して敵機の襲來にめげず前進を續けてゐる。わが波洋精銳部隊はこの日も南京を襲撃し他の部隊も之に参加、敵機と格闘をして一機を撃墜した。

十月二十五日 上海戦線江灣より大場鎮附近にかけて突出せる前線の敵は二十三日の靖國神社祭日を期して開始せるわが軍

の總退却を始めたところ後方部隊は「誓死抗戦」を叫んで概してなほねばつてゐるため今日も江灣鎮、大場鎮を中心に上海戦闘開始以來の大規模にして激烈無比の攻防戦が展開されてゐるのである。陸海空軍、砲兵陣その他特科隊の全能力をあげての協力はいふまでもない。

陸軍の總攻撃に相呼應して起つた陸戦隊は二十五日午前五時より新行動を開始最右翼の八字橋より最左翼のハスケル路附近に互る全線は開北に向け攻撃を行ひつゝある。

十月二十六日 大場鎮占領十月二十六日午後四時半大場鎮は遂に我が軍の手に落ちた、歡呼する勇士の眼には感激の涙が光つてゐる。この日の戦果は無論上海戦開始以來のものであり、上海戦に一エボツクを劃したものだ。前日に續いて總攻撃の熾火の中に夜を明した昨日は幸先よく先づ拂曉に江灣、大場と共に三大鎮の三

角形の頂點をなす廟行鎮が我が〇〇部隊によつて占領された。廟行鎮は肉彈三勇士と共に三尺の兒童も知る地である。

困難なる山嶽戦を繰返しつゝ山西方面正太線に沿うて娘子關近く進出した小林部隊は二十六日早朝より砲兵隊と協力して總攻撃を開始し午前中早くもその北方高地の一角を占領した、忻口鎮戦に於ても一昨日午後空軍と協力の下にその西方の重要なる二三の高地を占領した。

十月二十七日 昨日の大場鎮の陥落により愈々同夜より全前線の總退却を開始したものと、如く江灣鎮方面にあつては谷川部隊の終夜攻撃の後昨晩五時半先づ競馬場を占領、續いて各隊は五方より江灣に雪崩込んで遂に之を領有する一方直に西方及び西南に向け追撃に移つた。

機に乗じて昨午前五時より改めて開北に對し總攻撃を開始した陸戦隊は忽ち全線に互つて大進出をなし左翼部隊は午前

七、八時に開北の敵本陣北停車場並に鐵路管理局を占領したのと前後して中央部隊は商務印書館右翼は八字橋と念願の地をそれ〴〵手に收め各隊は湖の如く全開北に侵入し大場鎮方面より南下して京滬線路を越えて背面より開北に入り込んだ陸軍部隊と劇的の會合を遂げ正午頃開北は完全に我が軍の手に落ちてしまつた。

この日更に娘子關も亦遂に我が軍の爲に征服されたのである、その前日既に附近の要所を占領した。

十月二十八日 二十七日の大敗退に對し支那側では戰略的の隊定の退却で従つて大した打撃も受けてゐないと強辯してゐて支那軍は今や北は揚子江岸の瀏河より嘉定南翔を結ぶ南北の直線と蘇州河とを以て劃し、この短縮された新防禦線によつて我が銳鋒を受け止めようとしてゐる。又杭州方面より鐵道にて松江附近まで多數の新増援軍が繰出されて來てゐるので

我が海軍航空隊は蘇州河岸及び右の集結部隊に對し終日十數回に亙つて猛爆撃を加へた。なほ一昨日の支那軍の敗退に當つて上海西郊外に押寄せて來た敗兵は附近の我が豐田續工場にも雪崩込み警備中の英國兵も工部局警官も撤退してしまつた、又開北の撤退から同方面の支那住民數萬が租界内に殺到したので、共同租界は昨日より避難民の入市を禁止した。

娘子關の役に協力して迂回して敵の退路を斷ち奇勝を博した森本部隊は山西の山を下つて二十七日石門口を占領し、愈平地に出た、我が飛行隊は昨日午前午後とも娘子關附近より敗走の敵に對し爆撃を加へた、北部戦線の忻口にあつては昨廿七日夕刻四日間の猛攻撃の結果滹沱河の北方臺地を占領して忻口戦を頓に有利に導くに至つた。

緩遠に於て開會中の蒙古大會は廿八日蒙古聯盟自治政府と呼稱する新政權を樹

立し政府主席に雲王を、副主席に徳王を推すことを決議して宣言を發表した。

十月二十九日 開北一帯は完全に我が海軍の手によつて清掃し得たので長谷川司令長官は昨日地區内を巡視した開北の警備には陸戦隊が任に就くと共に大川内司令官は昨日開北民衆に對し布告を發した正太鐵路の南方を迂回して後山嶽地帯から出た森本部隊はその手始めとして廿九日朝平定の敵を平定した、一方娘子關を破つて正太鐵路に沿うて山西に入込んだ小林部隊も山を下つて同日そのすぐ北の陽泉近くまで押出して來た、平定より首都太原までは僅に十五里の行程である。

十月三十日 上海戦線租界の外廓に沿うて退却の支那軍を追撃して行つた各部隊は昨日中に蘇州河の北岸に略出揃つた。これと協力すべく追撃中の安達部隊も二十九、三十の兩日に亙つて數陣地を占領し又江橋に向ふ百田部隊は廿九日の初陣の

功名に續いて昨朝更に江橋東北の劉家巷部落を取つて直ちに江橋鎮に殺到した、劉家行西方にある重要陣地廣福駐にはなほ敵兵が殘留してゐるので昨朝來倉林、田代組と、添田組とが二方から攻撃を開始し、その一部の要點を占領してなほ猛撃を續行してゐる。

南を迂迴して山西に入つた森本部隊が一日昨日平定を占領したのに對し、娘子關を陥れて正太鐵道に沿うて堂々進撃する小林鯉登部隊は昨日午前十時平定の西北四里の陽泉を占領した。又我が「全日本號」を主力とする青木部隊は昨日園田部隊等と協力して忻縣より太原にかけて大空中戦を演じた未了すべて八機を撃破して偉功を奏したものである。

十月三十一日 此朝より砲兵と陸海空軍との擁護攻撃、工兵隊の協力の下に瀾索、石井、田上の三組は雨と砲彈雨との降りしきる中を決死の覺悟で敵前渡河を強行し上海西郊豐田紡績西方其他において正午頃渡河を完了した、味方からは歡聲揚

が、南岸の敵陣營からは焦燥の亂射だ、續いて田上部隊はまづ敵陣に突貫し申新紡工場の敵陣と激戦を開始した、交戦區域が佛租界と共同租界とに近くて砲聲が物凄く響いて慣れぬ租界當局では狼狽して特別の警備をなす等大騒ぎである。

南翔戦線、眞茹より南進する百田部隊は三十日の劉家巷占據後同夜半更に二三の陣地を陥れ昨朝より細見戦車隊の後援を得て江橋鎮の攻撃に移つた、一方南翔に向ふ安達部隊は三十日の謝家宅攻略後同夜小南翔の前衛をなす楊家宅を占め昨日更に舍家宅、馬路灣を取つて小南翔の死命を制するに至つた。殆ど清掃された開北になほ北停車場南方のポケット地帯で蘇州河に面し共同租界の中心部に近接する場所にある四行貯蓄銀行倉庫内に立籠る敵兵が最後に残つてゐるので我が陸戦隊では三十一日夜中この倉庫の大掃除を行つたがその結果鼠共が多量の新鮮なバター、ミルク、パン等を某方面からくわへ込んでゐたことが判明した、これで愈

々開北の掃蕩が完了したので我が兵はスコップを握つて先づ道路の整理に着手した山西進入後も正太線に沿うて進撃を續ける小林部隊は三十日の陽泉占領に續いて更にその西方十キロの辛興鎮を占領し確實に太原の方へ近づきつゝある。

十一月一日 畑俊六及小磯國明陸軍大將に任ぜられ鷺津少將外十五名陸軍中將に進級す。

最近南北戦線とも支那軍の逆襲が流行してゐて京漢線の最前線でも三十一日夕彰徳西方の洹河南岸で約二千の敵が大舉して我が軍を攻撃して來たので激戦を展開したが、例の如く我が痛棒を食つて退却した。破竹の勢ひで正太線に沿うて急進中の小林鯉登部隊は一昨日陽泉より更に西方の辛興鎮を占領した。

我海軍は日本と特殊關係ある福建特に福州地方に對しては特に慎重の態度を執つて來たが三十一日朝我が航空隊は初めて福州を二回に亙つて襲ひ橋梁その他を爆撃した、其際高射砲や機關砲を以て應

射し來つたが福州では初めてのことと大恐慌を呈した。

十一月二日 我が軍決死の蘇州河渡河によつて上海の敵勢力を孤立させてその死命を制するやうになると南市、浦東の中立地帯化案が英米佛三國の駐支海軍代表に依つて提出された、だが我が將士はそんなものには目もくれぬ様子で蘇州河畔の激戦を續けてゐる。

蘇州タリク渡河諸隊はそれ／＼日に夜を繼いで猛烈な攻撃をつゞけ我が戦線を南岸に擴大すると同時に敵を次第に南方へ壓迫してゐる、共同租界延道道路リソカイン路、豐田紡績附近においては場所柄殊に六ヶ敷しい戦鬪が進行してゐる、我軍は豐田紡に據る敵を撃つために涙を揮つて同工場を攻めてゐるのだ。

山西正太線に沿うて進撃を續ける小林部隊は一日午後測石驛を、岡崎快速部隊は昨日午前芹泉驛を、更に頑つて午後壽陽を占領するに至つた、太原まで餘す道程は僅に十六里となつた。